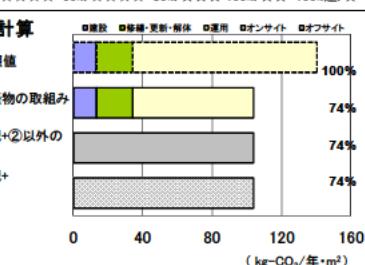
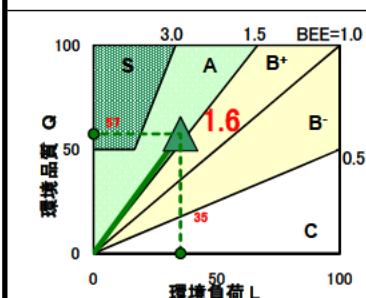
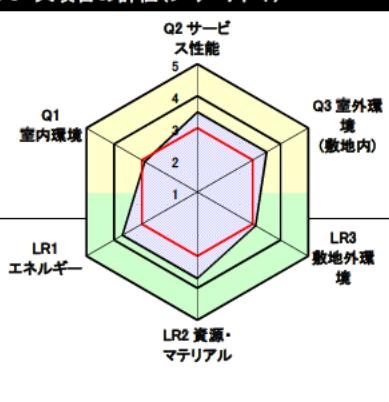


1-1 建物概要

建物名称	(仮称)新大阪暁明館病院	
建設地	此花区西九条5丁目	
建築用途	病院	
建築主	社会福祉法人 大阪暁明館	
設計者	(株)フジタ	
敷地面積	5,951.23	m ²
建築面積	2,690.23	m ²
延床面積	22,654.90	m ²
構造/階段	RC造一部S造	/ 地上11F
竣工年(予定)	2013年1月	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)


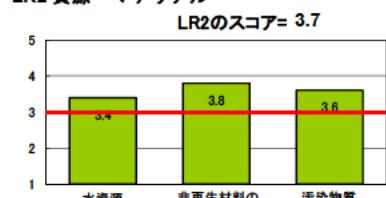
ラベル表示 **有**

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質
Q1 室内環境

Q2 サービス性能

Q3 室外環境 (敷地内)

LR 環境負荷低減性
LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項
総合

- 道路に面した、大庇を設けたエントランスアプローチと、公園に面したガラスを多用した開放的な3層吹抜のエントランスホールを連続して計画することで、周辺との一体感を感じさせる、地域に開かれた病院とする。
- 建物の色彩は周辺景観に圧迫感を与えることなく、病院としての清潔感を感じさせる白を基調とする。

その他

- 特になし。

Q1 室内環境

- 開口部に遮音等級T-2、T-3のサッシを使用し外部騒音に対して配慮を行う。
- 外壁・屋根・エントランスホールカーテンウォールのガラスには断熱性能の優れた材料を選択し室内への熱の侵入に対して配慮を行う。
- 化学汚染物質対策としてF★★★★を全面的に採用。

Q2 サービス性能

- バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満たすことで、不特定多数が利用する建物として利用者の配慮を行う。
- 建物基礎部分に免震装置を導入し、内部設備の保護に配慮している。

Q3 室外環境 (敷地内)

- 公園に対してシンメトリーでV字型に開いた形態として敷地境界を積極的に線化することで、公園との一体感を感じさせる緑に囲まれた病院として、まちなみ景観への配慮を行っている。
- 計画地にある忠魂碑を建物エントランス横に移設を行い、当該地の歴史性の維持を行っている。

LR1 エネルギー

- エネルギー利用効率の高い機器の積極的採用。
- 病棟階廊下への太陽光集光システムによる採光や屋上に太陽光発電を設置するなど
- 自然エネルギーを積極的に採用している。

LR2 資源・マテリアル

- 節水型器具を採用し、水資源の節約を行っている。
- タイルやインテラーロッキングブロックにリサイクル材を使用品を使用している。
- 部材の再利用可能性の向上として、躯体と仕上げ材の分離を容易としている。

LR3 敷地外環境

- 敷地内を中高木で積極的に緑化することで、敷地外への熱的影響の低減を図る。
- 十分な駐車場と駐輪場の整備と駐車場入口の分散による周辺への交通負荷抑制。



CASBEE大阪 OF THE YEAR 2013 表彰候補建築物

新 大阪暁明館病院

所在地：大阪市此花区西九条5の4の8

主用途：病院

事業者：社会福祉法人大阪暁明館病院

設計者：株式会社フジタ大阪支店一級建築士事務所

〔建築概要〕

延床面積：22,654.90m²

階 数：地上 11 階、塔屋 1 階

構 造：柱 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、

梁 鉄骨造

竣 工：平成25年1月

〔CASBEE 大阪における評価〕

サステナビリティランキング：A

建築物の環境性能効率(B E E)：1.6



(特徴)

・安全・安心を追求するため、建物は基礎免震構造とし、効率性・環境への配慮のため、柱がRC造、梁が鉄骨造の混合構造、FSRPC-B工法を採用することで、ロングスパンで柱に左右されない、自由度の高いプランを実現した。

・建物の配置計画は、周辺への圧迫感と閉鎖感の緩和のため、南側の公園を囲いこむように、105度に開き、R形状のエントランスアプローチ広場と共に、まちなかに開かれ、訪れる人々をアーチ状に柔らかく受け止める形態とした。

・エントランスホールから中央ホールまでを一体化した、3層吹抜け空間を設け、明るさと開放性を演出し、橢円形状の中央ホールはパイプオルガンを将来設置し、コンサートを催す計画としている。

・環境、省エネルギーへの配慮として、屋上緑化と、一部のスポット照明を除き全館LED化を実現。

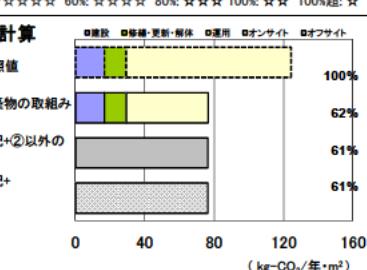
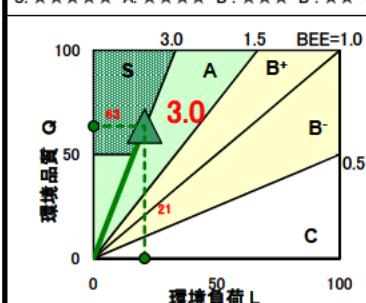
・停電時の最低限の生命維持機能の確保として、太陽光発電と自家発電機を設置。



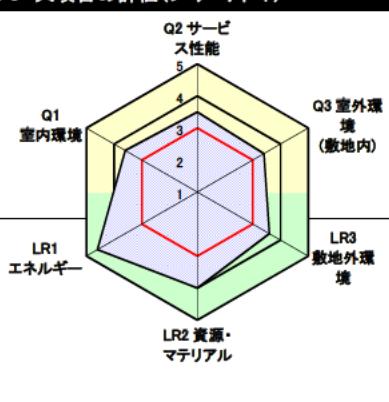
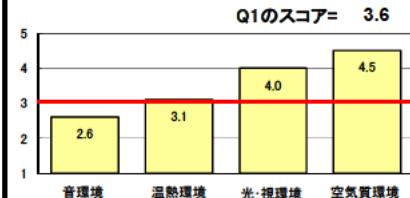
1-1 建物概要

建物名称	(仮称)イオン大阪ドームSC	
建設地	大阪市西区千代崎3丁目	
建築用途	物販店舗、飲食店舗、駐輪場	
建築主	イオングループ(株)	
設計者	(株)大林組	
敷地面積	28,220.54	m ²
建築面積	17,033.57	m ²
延床面積	76,454.25	m ²
構造/階数	S造	/ 地上5F、地下1階、塔屋2階
竣工年(予定)	2013年3月	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)


このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもの

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質
Q1 室内環境

Q2 サービス性能

Q3 室外環境(敷地内)

LR 環境負荷低減
LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

3 設計上の配慮事項
総合

岩崎橋地区地区計画の趣旨に則り、多目的ドームと有機的な連携を図りつつ、賑わいのある複合商業施設を創造することで、市民が集い、憩い、楽しめる空間を形成する。

また、地球環境に配慮した取り組みをハード、ソフト両面で強化するとともに、広域防災拠点として災害時の避難場所、物資供給基地として機能する「防災型エコストア」として計画を行う。

Q1 室内環境

外気量CO₂制御を行い、最低限の換気量を確保しつつ省エネを図る。
設計照度を500lxとし、不要分は間引きを行う。

Q2 サービス性能

バリアフリー新法の移動円滑化誘導基準を満たした、弱者に優しい施設とする。売場の天井高さは4300、基準階3500を確保し、解放感と余裕をもった空間とする。機能、設備、デザインが一体となった内装計画を行い、仕上材については、メンテナンス、エコロジーを意識した材料を使用する。

その他

高さ31m以下であるにもかかわらず非常用エレベーターを設置し、より安全性の高い建物としている。

また「防災型エコストア」として、広域防災拠点：京セラドーム大阪と連携した災害時の避難場所・物資供給基地としての防災機能確保と、ガスコージェネ設置による通常時の熱効率アップと地冷への熱融通・災害時のエネルギー確保を図っている。

Q3 室外環境(敷地内)

大阪府下の自生植物を外構に植栽。
実が飼となる樹木や、餌となるチョウの幼虫が好む樹木・花などの植栽、水槽や巣箱の設置、など野生の鳥の生育環境を整備。

LR1 エネルギー

コージェネ余熱排熱のDHCプラントへの熱融通による有効利用。DHCとセントラル熱源によるエネルギーの相互バッファップを行い、エネルギーセキュリティの安全性を高める。太陽光発電の出力変動を発電機能付GPIにより補完し、安定的な電力削減を図る。

LR2 資源・マテリアル

節水型衛生器具の採用。
リサイクル資材の積極的採用。
雨水を貯留し、外構緑地へ散水利用。

LR3 敷地外環境

自転車、自動車駐車場の台数を法定以上確保。
生ごみ計量による排出抑制と、ビンの破碎・缶の圧縮による減容化を行う。



CASBEE大阪 OF THE YEAR 2013 表彰候補建築物

イオンモール大阪ドームシティ

所在地：西区千代崎3丁目13番1号ほか
主用途：店舗、駐車場
事業者：イオンリテール株式会社
設計者：大林組大阪本店一級建築士事務所

〔建築概要〕

延床面積：76,454.25m²
階 数：地上5階、地下1階
構 造：鉄骨造
竣 工：平成25年3月

〔CASBEE 大阪における評価〕

サステナビリティランキング：S
建築物の環境性能効率(BEE)：3.0

〔特長〕

- 「防災型エコストア」として、広域防災拠点：京セラドーム大阪と連携した災害時の避難場所・物資供給基地としての防災機能確保と、ガスコーチェネ設置による通常時の熱効率アップと地冷への熱融通、災害時のエネルギー確保を図っている。また屋根・壁面に設けた太陽光発電の出力変動を発電機能付GHPにより補完し、安定的な電力削減を図っている。
- 阪神・地下鉄駅の出入口前に、地域の憩いの場となる緑豊かな多目的広場を設けている。
- 壁面・屋上を立体的に緑化することで視覚的な緑のボリューム感を高めている。外構にはチョウや野鳥のえさとなる植物を植栽し、また野鳥の水場や巣箱を設置することにより、野生生物の生育環境を整備している。
- 「防災型エコストア」への取り組みを地域居住者や来店者に情報発信するインフォメーションコーナーを設けている。



外観



壁面緑化



野鳥の水場や巣箱を設けた多目的広場



防災とエコのインフォメーションコーナー